

歯科衛生士による研修歯科医の態度評価

奥村 暢 旦¹⁾ 塩 見 晶²⁾ 伊 藤 晴 江³⁾
石 崎 裕 子¹⁾ 中 島 貴 子^{1,2)} 長 谷 川 真 奈¹⁾
中 村 太²⁾ 藤 井 規 孝^{1,2)}

抄録：歯科医師臨床研修は必修化後10年が経過した。それぞれの管理型施設は質の高い歯科医師を社会に送り出すために様々な方法を用いて研修歯科医の評価を行っている。今回、我々は22名の研修歯科医を対象に5名の歯科衛生士による態度評価を行った。指導歯科医と歯科衛生士による協議を行って策定した評価基準を用いて研修前・中・後期に3回の評価を行い、評価項目が共通する前期と後期の結果を比較したところ、すべてについて「適切」と判断される割合が増加した。今後さらなる改良や工夫の必要性はあるものの、歯科衛生士による評価を形式的に活用することの有用性が示された。

キーワード：歯科医師臨床研修 研修歯科医 歯科衛生士態度評価 チェックリスト

緒 言

施行後10年が経過した歯科医師臨床研修制度¹⁾は、平成28年度に2度目の見直しを控えている。各管理型施設においては、より多角的に歯科医師臨床研修の分析を行い、それを改善する努力が求められており^{2,3,4)}、研修歯科医の評価に指導歯科医だけでなく、看護師や歯科衛生士、医療事務担当者など歯科医療に関わる様々なスタッフを加えることも一法と考えられる。新潟大学医歯学総合病院歯科で行われている単独型プログラムでは、研修歯科医を担当医と位置づけ、各研修歯科医が20～30名程度の患者を担当する形式で運営されており、診療室においては研修歯科医も歯科医療スタッフと協力しながら治療を行っている。そこで、研修歯科医を多角的に評価し、さらに有効な形式的評価を追加することを目的として、本院に勤務する歯科衛生士に協力を求め、歯科衛生士による研修歯科医の態度評価を行った。

対象および方法

対象は平成27年度に新潟大学医歯学総合病院で臨床研修を行った研修歯科医22名(男性7名、女性15名、平均年齢27.13歳)とした。研修歯科医には登院式後に2週間程度行ったオリエンテーションにおいて、講義や実習形式で評価項目とした内容に関する説明を行った。また、研修歯科医には本院歯科医師臨床

研修の評価に係る内容は個人情報を含まない形で学会発表等に用いる可能性があることについて説明し、同意を得た。研修歯科医の評価は、新潟大学医歯学総合病院診療支援部歯科衛生部門の保存・臨床教育区画を担当する歯科衛生士5名(経験年数5～18年、平均9.6年、途中退職のため1名交代)が行った。評価に際しては一人の歯科衛生士が同じ研修歯科医を前期(5～6月)、中期(9～11月)、後期(1～2月)の3つの期間にわたって担当することとし、予め設定した評価項目について図1から3に示すチェックリストと評価基準を用いて行った。評価は各研修歯科医について上記期間内に一度、診療時間内に診療室内で行い「評価できず」はタイミングの関係により、対象項目を実際に確認することができなかった場合にチェックすることとした。研修歯科医には新たな診療環境に慣れる時間が必要であることも考慮して、前期には最も基本的且つ重要である身だしなみや器材片付けに関する項目を評価対象とし、診療に慣れてくる頃に相当する中期には、診療時における患者への配慮を追加した。研修終盤の後期には、慣れると疎かになりがちな基本的な態度を再確認するために前期と同じチェックリストを用いた。また、評価シートには特に気になる点があった場合にコメントを記載するための自由記載欄も設けた。なお、評価項目の策定は、単独型プログラムの指導歯科医と担当歯科衛生士が共同で行い、それぞれの立場から重要と思われる項目を網羅するよ

¹⁾新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部(主任：藤井規孝教授)

²⁾新潟大学大学院歯学教育研究開発学分野(主任：藤井規孝教授)

³⁾新潟大学大学院歯周診断・再建学分野(主任：吉江弘正教授)

¹⁾General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital Niigata University (Chief: Noritaka Fujii) Asahimachido-ri 1-754, Niigata 951-8122, Japan.

²⁾Division of Dental Research and Educational Development, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Noritaka Fujii)

³⁾Division of Periodontology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Hiromasa Yoshie)

		項目	評価区分			判断基準
全般	身だしなみ	髪 手指・爪 白衣・服装	適切	普通	不適切	別紙基準髪型参照 1つでも明らかに該当すれば不適切 疑わしい場合は普通 爪が長すぎず、手指に汚れがなければ清潔。どちらか一方のみなら普通。 汚れ・しわ等が目立たず、研修マニュアルの要件をすべて満たしていれば適切 どちらか一方なら普通
			適切	普通	不適切	
			適切	普通	不適切	
	態度	挨拶 言葉遣い	常に・誰にでも 適切	特定の人のみにみ 普通	時々 不適切	同僚研修歯科医に対しても診療室で用いるにふさわしい言葉遣いであるか
材料・設備	材料・消耗品	片付け	清掃後所定位置へ	普通	不適切	キャビネット内について、清潔・所定の位置どちらか一方のみなら普通
			適切	普通	不適切	
	器具	片付け	適切	普通	不適切	使用後に材料の残留等なく元の位置に返却もしくは洗浄に出せているか
			適切	普通	不適切	通常の清拭および血液付着時について材料と方法を口頭で確認 両方理解していれば適切 実際の清拭についてタッチサーフェス→ヘッドレスト→スピンドルの順を理解しているか口頭確認
ゴミの廃棄	鋭利物の廃棄法 医療ゴミの分別法	適切	普通	不適切	間違いの多い2、3の鋭利物について廃棄法を口頭で確認。1つでも間違っていれば不適切	
		適切	普通	不適切	間違いの多い2、3の医療ゴミについて廃棄法を口頭で確認。1つでも間違っていれば不適切	

図 1 研修前期・後期に実施した評価の内容および評価基準

		項目	評価区分			判断基準
診療	診療前に 患者に対して	環境が整っているか 声かけの頻度とタイミング 診療時の配慮 ユニット位置・角度	いる	普通	いない	2つ以上の器具過不足があれば×、ユニット周囲が明らかに不潔であれば×どちらか一方なら普通 ユニットを動かす際や処置の度に常に声を掛けて確認している 両方で適切、どちらかで普通 患者の全身状態や既往歴を診療前に口頭確認 それらに配慮できているか 両方で適切、どちらかで普通 患者の体位について配慮している ユニット作動後に姿勢を確認している 両方で適切、どちらかなら普通
			適切	普通	不適切	
	時間	管理できているか	できている	普通	できていない	予定時間通りに診療開始し、時間内に終了している。
	材料・設備	材料・消耗品	片付け	清掃後所定位置へ	普通	不適切
適切				普通	不適切	
ユニット		清拭法 清拭手順	適切	普通	不適切	使用後に材料の残留等なく元の位置に返却もしくは洗浄に出せているか 通常の清拭および血液付着時について材料と方法を口頭で確認 両方理解していれば適切 実際の清拭についてタッチサーフェス→ヘッドレスト→スピンドルの順でできている
			適切	普通	不適切	間違いの多い2、3の鋭利物について廃棄法を口頭で確認。1つでも間違っていれば不適切
ゴミの廃棄	鋭利物の廃棄法 医療ゴミの分別法	適切	普通	不適切	間違いの多い2、3の医療ゴミについて廃棄法を口頭で確認。1つでも間違っていれば不適切	
		適切	普通	不適切	間違いの多い2、3の医療ゴミについて廃棄法を口頭で確認。1つでも間違っていれば不適切	

図 2 研修中期に実施した評価の内容および評価基準

研修歯科医 服装・髪型規定 (新潟大学研修マニュアルより抜粋)

【服装】

- ・ 白の白衣(長袖, 半袖), 診療ズボン
- ・ 白衣の下の着衣は無文字の地味な(透けない)色とする
- ・ 半袖白衣の下に長袖のシャツを着ない
- ・ ボタンはすべて留める
- ・ 靴はつま先を覆い, かかとを固定できるものとする
- ・ 帽子は必要時に着用する

【髪】

- ・ 診療時に前髪や横髪が自分の顔にかからない
- ・ 長い髪は束ね, 肩より前に出さない(まとめるか留める)
- ・ 髪を留める際には飾りのないヘアピンを使用する
- ・ バナナクリップ等は使用しない
- ・ 髪を留めるゴムの色は黒・茶・紺
- ・ 強いパーマは禁止
- ・ 色はカラースケール6程度まで

図 3 身だしなみ, 服装に関する要件

うにした。研修歯科医には、平成27年度の研修マニュアルに試行的に歯科衛生士による評価を行うことを掲載すると共に、週に一回開催している連絡会を通じて具体的な内容を周知した。それぞれの研修歯科医に対して得られた前中後期の評価結果は、連絡会を通じて全体にフィードバックすると共に、特に必要と思われる事項については指導歯科医より個別に指導を行った。

結 果

22名の研修歯科医全員に対してそれぞれの期間における歯科衛生士評価を得ることができた。その中から特に前期と後期に実施した評価において共通する身

だしなみ, 態度, 器具片付け, ユニット清拭, ゴミの分別について比較検討を行った。

1. 身だしなみ

髪や手指, 服装に関する評価を行った身だしなみでは, 比較的多くの研修歯科医が「適切」であると評価されていた。前後期を比較すると, 髪については「適切」がやや減少し, 「普通」「不適切」がやや増加していた。手指・爪に関しては「適切」が増加, 「普通」および「評価できず」は減少し, 後期では前期にはみられなかった「不適切」が認められた。服装に関しても「適切」が増加し, 前期でみられた「不適切」は後期においては認められなくなった(図4)。

2. 態度

挨拶に関しては「常に・誰にでも」「特定の人のみ」「時々」を「適切」「普通」「不適切」の3段階に換えて集計した。挨拶, 言葉遣いとも「適切」は前後期で過半数を超えていたが, 挨拶に関しては後期で「適切」がやや減少し, 前期にはなかった「不適切」の評価が認められた。言葉遣いについては後期で「適切」が増加し, 「普通」や「不適切」は減少していた(図5)。

3. 器具片付け

診療後の材料や器具の準備や片付けはユニット周辺スペースの収納キャビネット付属品である材料や消耗品を「適切」「普通」「不適切」で, 中央器材室管理の器具を「適切」「不適切」で評価することとし, 他の項目同様確認できなかった場合を「評価できず」とし

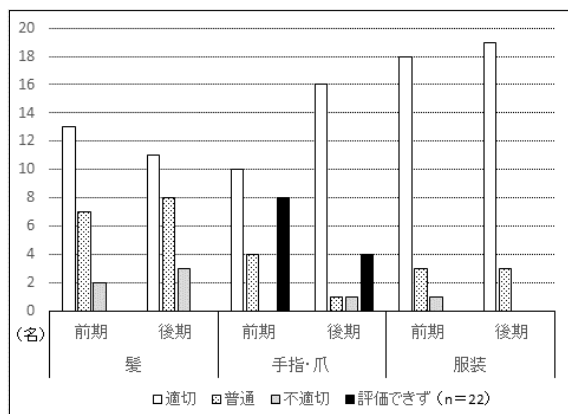


図 4 髪, 手指・爪, 服装に関する評価の比較

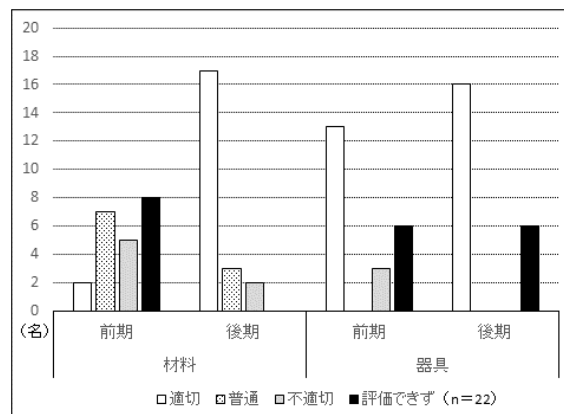


図 6 材料, 器具の片付けに関する評価の比較

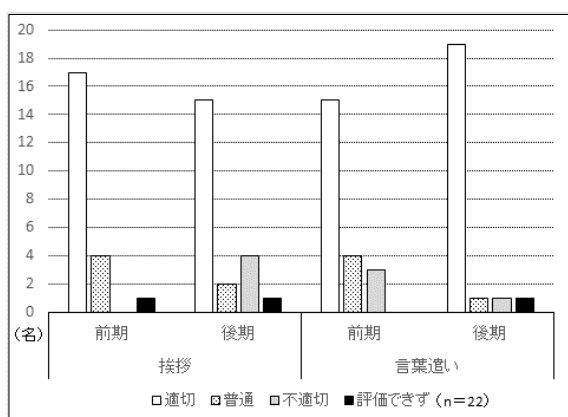


図 5 挨拶, 言葉遣いに関する評価の比較

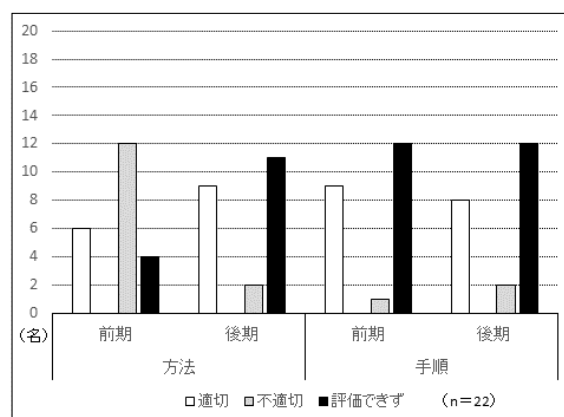


図 7 ユニット清拭方法, 手順に関する評価の比較

て集計した。材料に関しては前期に比べて後期で大きく「適切」の割合が増加し、「普通」「不適切」は減少した。器具については後期で「適切」が増加した。全般的に片付けの評価については「評価できず」が比較的多くなる傾向がみられた(図6)。

4. ユニット清拭

診療後のユニットの清拭方法と手順に関する評価も「適切」「不適切」「評価できず」で行った。清拭方法については後期で「適切」が増加し、「不適切」が減少していた。しかしながら、「評価できず」も後期において増加していた。清拭手順については前期と後期で大きな変化はなく、「評価できず」が最も多く、「適切」と合わせると評価の大部分を占めていた(図7)。

5. ゴミの分別

鋭利物の廃棄, 医療ゴミの分別に関する評価もユニット清拭と同様に行った。過半数の研修歯科医が「適切」と評価されていたが, 鋭利物の始末は「適切」と評価された人数がやや減少した。前期でみられた「不適切」の評価は後期では認められなくなったが, 「評価できず」が増加していた。分別については後期で「適切」が増加したが, 「不適切」がなくなり「評

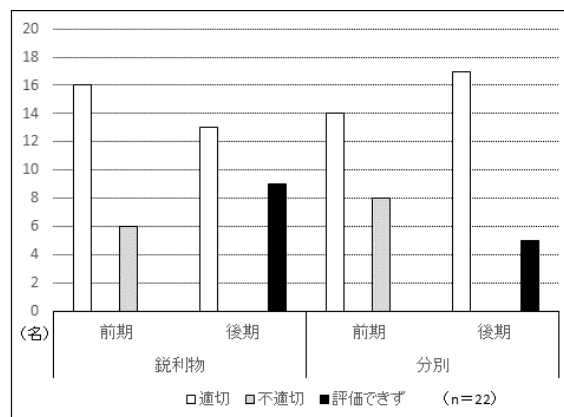


図 8 鋭利物の廃棄, ゴミの分別に関する評価の比較

価できず」が増える結果となった(図8)。

6. 自由記載欄のコメント

評価用紙にチェックリスト以外に設けた自由記載欄には, 髪の毛のまとめ方や白衣の下に着ているものに関するコメント, マスクのかけ方等に関するコメントが寄せられた。特に診療に使用し, 血液が付着したタオルの洗浄依頼については, ほぼすべての歯科衛生士より「方

法を理解していない」というコメントが寄せられた。

考 察

全体的に研修前後期を比較しても「適切」の割合は比較的高く、研修歯科医の身だしなみや態度、器具片付けには概ね問題がみられないことが示された。また、身だしなみや態度に比べるとユニット清拭やゴミの分別では「評価できず」の割合が高く、今後評価項目に改善の余地があることが示唆された。この結果には研修歯科医と歯科衛生士の数に大きな差があること、5名の歯科衛生士は保存、予防歯科に加えて臨床実習、臨床研修の診療区画を担当していることなど環境的な要因が関係していると思われた。身だしなみや態度など、日常的に判断がつく評価項目に対し、ユニット清拭やゴミの分別などは研修歯科医がそれらの作業を行っている現場を確認しなければ評価することができない。しかし、診療後の適切な片付けに関する評価は直接的な診療に対する評価と同等に重要であると考えられるため、指導歯科医と歯科衛生士がお互いをサポートしながら協力して研修歯科医の指導に当たる体制を構築することが必要と思われた。そのためには、研修歯科医が行う診療を診療準備から終了までのステップに分け、指導歯科医と歯科衛生士がそれぞれの担当パートを決めて評価することも一案と考えられた。

身だしなみや態度、ゴミの分別については研修前期から過半数の研修歯科医が「適切」と評価されていた。この結果には登院式直後に実施しているオリエンテーションや予備研修が関係していると思われた。特に挨拶や言葉遣いに関しては、歯科衛生士による直接的な評価の他にも指導歯科医や看護師から適宜指導や注意喚起がなされていること、研修歯科医が担当医として患者に接する研修形態も少なからず影響しているように思われた。一方、これらの評価は研修後期になると「不適切」の割合がわずかに増加していた。この結果には、いわゆる中だるみや気の緩みが関係していると思われた。また、診療技術などとは異なり、身だしなみには繰り返し練習しなければ習得できない要素はなく、本人の注意や気配りで直ちに改善することができる。さらに、医療人のモラル的な要素は一般に現場経験期間が長くなるに連れて厳しく求められる傾向がある。従って、身だしなみ、態度の評価については前期に比べて後期では評価者側の基準が変化した可能性があることも考えられ、この点についてはさらに評価のすりあわせを行う必要性が示唆された。

材料の片付けに関する評価は研修歯科医の診療環境への慣れが関係するため、研修後期に改善されることについては予想することができた。すなわち、5～6月を対象期間とした前期において「適切」の評価が低

かったことは、研修歯科医が環境に慣れていないことを示していると思われた。また、研修後期に「評価できず」が1/2以下に減少したことには、研修歯科医が片付け方法を理解し、片付けに要する時間が短縮されたため、評価するタイミングを逸してしまった可能性があると思われた。

ユニット清拭は、他の項目に比べて「評価できず」が多く、今回の評価の中で前述の理由により最も評価が難しかった項目であったことが示された。タッチサーフェスのアルコールによる清拭は事後に適正な実施を確認することが難しく、実際の作業をチェックしなければわからない。また、事後に実施の有無を確認することも難しいため、評価方法に工夫や改良を要することが示された。

ゴミの分別は特に血液の付着した医療ゴミや浸潤麻酔用注射針、縫合時に用いた針の廃棄などについて重点的な評価を行った。身だしなみや態度同様、ゴミの分別も研修前中後期のすべての期間において評価項目に含めたが、研修期間を通じて「不適切」は減少傾向を示すように思われた。研修歯科医は同一のチェアで複数の患者診療を行うことがあり、片付けにはチェア区画に備え付けられた同じ鋭利物廃棄箱やゴミ箱を使用している。研修歯科医の一日当たりの診療患者数は徐々に増加するため、研修後期において「評価できず」が増加したことには患者の入れ替わりが多くなり、当該患者の診療後について評価するタイミングを逃してしまったことが関係していると考えられた。

自由記載欄に寄せられたコメントには、血液が付着したタオルの処理方法に関するものなど本院歯科において再利用器具の管理を担当する歯科衛生士ならではの思われるものがみられた。主に指導歯科医によって与えられる診療に関する直接的なアドバイス同様、研修歯科医にとっては医療安全や感染対策を学ぶためにこれらのコメントも大いに参考になったと思われた。また、比較的特殊な器具の片付けについては研修歯科医だけではなく指導歯科医にとっても参考になることがあった。

全体を通じて、今回行った歯科衛生士による研修歯科医の評価は貴重な試みであったと思われた。研修歯科医が現場の一員として受け入れられるためには、指導歯科医に限らず同じ職場で働く先輩医療スタッフから様々なアドバイスを得ることが必要不可欠である。ほとんどの研修歯科医にとって、将来的になくはない存在の歯科衛生士⁵⁾から信頼される歯科医師になるために評価してもらおうことの意味は決して小さくはない。前述のように今回の評価結果は、病院全体に関係する要周知事項や研修に関する連絡を行うために開催している連絡会において、対象となった研修歯科医全体にフィードバックした。「適切」が後期の評価に

において増加した理由にはこのようなフィードバックが関係していると考えられ、研修歯科医の身だしなみや態度、診療後の片付けが適切であることは、効果的に臨床研修を運営するために大変重要な要素となり得ることを再認識させられた。今後もさらに改良を行いながら歯科衛生士による研修歯科医の評価を継続し、効果的な形成的評価にすることを旨とする予定である。

結 論

今回試みた歯科衛生士による研修歯科医の身だしなみや態度、診療後の器具片付け、ユニットの清拭、ゴミの分別に関する態度評価は、さらなる工夫や改良を加えることにより、研修歯科医に対する有効な形成的評価となり得ることが示唆された。

謝 辞

稿を終えるに当たり、多忙な日常業務を抱えているにも関わらず研修歯科医の評価に快くご協力下さった新潟大学歯学総合病院歯科衛生士部門 小林実可子、白井友恵、阿部春奈、高野綾子、小島千奈美、手嶋謠子 各歯科衛生士の皆様に深甚なる感謝の意を表します。

本論文には報告すべき利益相反事項は含まれておりません。

文 献

- 1) 厚生労働省医政局歯科保健課. 歯科医師臨床研修制度の概要 2012年. <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/gaiyou/> (最終アクセス日 2016.3.30)
- 2) 関 啓介, 紙本 篤, 荻原芳幸. 日本大学歯学部附属歯科病院歯科医師臨床研修プログラムにおけるインプラント治療実習. 日口腔インプラント会誌 2014; 27: 346-352.
- 3) 恒石美登里, 菊谷 武, 石井拓男. 在宅歯科医療の研修に関する検討 全国の大学歯学部・歯科大学, 都道府県歯科医師会, 全国の歯科医師臨床研修施設, 都道府県歯科衛生士会へのアンケート調査の結果. 老年歯学 2008; 22: 398-406.
- 4) 池田亜紀子, 勝部直人, 宜野座織恵, 長谷川篤司. 歯科医師臨床研修における研修目標到達支援としてのe-learningの活用. 日総歯誌 2015; 7: 3-7.
- 5) 松山美和. 歯科医師としての歯科衛生士教育とキャリアアップ支援. 日補綴会誌 2014; 6: 285-290.

著者への連絡先

奥村 暢旦
〒951-8122 新潟県新潟市中央区旭町通1-754
新潟大学歯学総合病院歯科総合診療部
TEL 025-368-9023 FAX 025-227-0991
E-mail: okumura@dent.niigata-u.ac.jp

An affective domain assessment for the dental trainees by the dental hygienists

Nobuaki Okumura¹⁾, Aki Shiomi²⁾, Harue Ito³⁾,
Hiroko Ishizaki¹⁾, Takako Nakajima^{1,2)}, Mana Hasegawa¹⁾,
Futoshi Nakamura²⁾ and Noritaka Fujii^{1,2)}

¹⁾General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital Niigata University

²⁾Division of Dental Research and Educational Development, Niigata University
Graduate School of Medical and Dental Sciences

³⁾Division of Periodontology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

Abstract : The post-graduate dental clinical training was enforced 10 years ago. Each of the management-type facilities have strived to improve the training curriculum in order to certify the competency of new dentists. A trial affective domain assessment by 5 dental hygienists was given to 22 dental trainees at Medical and Dental Hospital Niigata University. The checklist established by the instructor dentists and dental hygienists were used for the assessment at the early, middle and last stage of clinical training term. As the result the number of score evaluated "appropriate" was higher at the last stage than early one. Although furthermore improvements would be needed, it was suggested that the assessment by the dental hygienist was useful as formative evaluation in the post-graduate dental clinical training.

Key words : post-graduate dental clinical training, dental trainee, dental hygienist, performance assessment, checklist